

NO	書名	巻次/副書名	著者名	出版年	出版社	内容	現在場所	請求記号	備考
191	福島第一原子力発電所の地質・地下水問題	原発事故後10年の現状と課題	福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ:編著	2021.7	地学団体研究会	地学団体研究会の有志が集まって発足した、福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループによる論文集。汚染水問題について6年間学術研究を行い、汚染水が減少しない原因分析・今後の対策について提言する。	郷土資料	369 7	
190	福島原発事故10年検証委員会	民間事故調最終報告書	アジア・パシフィック・イニシアティブ/著	2021.2	ディスカヴァー・トゥエンティワン	東日本大震災での福島第一原子力発電所事故後、民間の立場から検証を行ったシンクタンクの最終報告書。	一般・技術	543 ア	
189	裁かれなかった原発神話	福島第二原発訴訟の記録	松谷 彰夫/著	2021.2	かもがわ出版	原子力発電所の建設が持ち上がった40数年以上前から反対し続けてきた人がいた。原発建設推進派は何を主張し、反対者たちは何を訴えたのか。当時の資料や証言を元にし伝える。	一般・技術	543 マ	
188	廃炉	「敗北の現場」で働く誇り	稲泉 連//著	2021.2	新潮社	東日本大震災から10年。福島第一原発では40年かかる廃炉作業が今日も続く。数多の困難を乗り越える技術者、福島からの異動を拒む官僚、東電を選んだ新入社員…。「未曾有の現場」を支える人々の熱き想いを紡ぐ。	一般・技術	543 イ	
187	ドロえもん博士のワクワク教室「土ってふしぎ!？」	放射性セシウムに対する土のはたらき	ドロえもん博士と仲間たち:著	2019.3	東方通信社	東日本大震災時の福島原子力発電所事故では何が起きたのか。放射性物質の半減期は？身を守るにはどうしたらいいのか？また、日常生活における放射線の量やカリウム40を含む食品はどんなものがあるのだろうか。イラストとともにわかりやすく解説。	児童・産業	613 ト	
186	メイドインふくしま		コリン・キャンベル:著	2020	メタグループ		一般・技術	543 コ	
185	牛飼い農家の山田さんち	3.11後の福島	酒井 りょう//著	2020.1	かもがわ出版	東日本大震災、原発事故で避難した山田さん一家。中学生の智広は地震列島の日本になぜ原発が50基以上もあるのかと疑問を抱き、仲間と原発事故の解明を始める。「原発事故は想定外」と責任回避した電力会社は…。	児童・文学	913 サ	
184	白い土地	ルポ福島「帰還困難区域」とその周辺	三浦 英之//著	2020.1	集英社クリエイティブ	遺言を託した福島県浪江町の町長、娘を探す父親…。原発被災地の最前線でいきる福島の人々と、住民が帰れない“白い土地”に通ったルポライターの物語。集英社ウェブ『イミダス』、『朝日新聞』連載を加筆修正して単行本化。	一般・社会	369 ミ	
183	聞き書き南相馬		渡辺 一枝//著	2020.3	新日本出版社	未曾有の災害と原発事故で深く傷ついたフクシマ。「3.11」以後、一人ひとりがどのように思い、揺らぎながら生きてきたかを、「南相馬」を定点に書き綴る。メールマガジンを書籍化。	一般・社会	369 7	

182	<全村避難>を生きる	生存・生活権を破壊した福島第一原発「過酷」事故	菅野 哲 // 著	2020.2	言叢社	福島第一原発過酷事故による全村避難。生活権を丸ごと破壊する状況の中で、「いのちの権利」とはなにかを問い、個と家族と<基底村の共同性>に根をおいて闘った記録。飯舘村の公務員としての実経験と倫理も語る。	一般・社会	369 カ	
181	ふくしま原発作業員日誌	イチエフの真実、9年間の記録	片山 夏子 // 著	2020.2	朝日新聞出版	人類史でも未曾有の原発事故から9年。高線量下で日当6500円、作業員の被ばく隠し、がん発病と訴訟…。箱口令が敷かれた作業員たち取材し、福島第一の「現場」に迫った記録。『東京新聞』連載に加筆して書籍化。	一般・技術	543 カ	
180	小説Fukushima50		周木 律 // [著]	2020.1	KADOKAWA	大地震による大津波の影響で、全電源を喪失した福島第一原子力発電所。刻一刻と迫る炉心溶融を食い止めるため、死地に残り、原子炉建屋に突入した、名もなき作業員たちがいた…。2020年公開の同名映画のノベライズ。	文庫	914 シ	
179	トモダチ作戦の最前線	福島原発事故に見る日米同盟連携の教訓	磯部 晃一 // 著	2019.8	彩流社	震災と原発事故という大災害に自衛隊は約10万人を動員し、米軍も最大時1万6千人、艦艇約15隻、航空機140機が参加した。平常の災害出動とは全く異なる事態における日米の政府、自衛隊・米軍の行動を証言で克明に綴る。	一般・社会	369 イ	
178	東京電力(株)福島第一原子力発電所事故後の放射線モニタリングと除染の分野における福島県とIAEAとの間の協力プロジェクト最終報告書	2013～2017年/福島県提案プロジェクト	福島県:編	2018.3	福島県		郷土資料	543 フ	禁帯出
177	図説・17都県放射能測定マップ＋読み解き集	2011年のあの時・いま・未来を知る	みんなのデータサイトマップ集編集チーム:企画・編集	2019.3	みんなのデータサイト出版	東日本大震災による福島第一原子力発電所事故後、日本各地で立ち上がった「市民放射能測定室」のネットワーク「みんなのデータサイト」による6年間の活動の測定結果をまとめて地図化し、解説する。	一般・技術	543 ミ	
176	地方創生「ふたば」フェニックスシティ構想	原発事故被災八カ町村は大合併で蘇る	片寄 洋一 // 著	2016.3	同友社	福島第一原発の事故によって双葉地方の住民は強制避難させられ、戻れる見込みもない。このままでは双葉地方は壊滅し、無人地帯になってしまう。双葉地方に住環境を創生することはできないか。その可能性を探る。	一般・社会	369 カ	
175	地方創生福祉の街「ふたば」構想	原発事故被災八カ町村は大合併で蘇る	片寄 洋一 // 著	2018.8	同友館	原発事故で被災した福島県双葉郡のうち、いくつかの地域で避難指示が解除されたが、戻ってきた住民は僅かである。国家プロジェクトとして、域外から高齢者を受け入れる福祉の街として双葉郡を再スタートさせることを提言する。	一般・社会	369 カ	

174	福島除染と復興		川崎 興太 // 著	2018.8	丸善出版	原発事故からの福島の復興に関する研究の中間とりまとめ。福島復興政策が大きく転換する前の2016年度までの期間を対象に、福島における除染と復興の実態と課題を明らかにし、今後の福島復興政策のあり方を検討する。	一般・社会	369カ	
173	原発ゼロ社会への道	脱原子力政策の実現のために	原子力市民委員会	2017.1	原子力市民委員会	東電福島原発事故の被害と根本問題 福島第一原発事故現場の後始末 核廃棄物政策の課題 原子力規制の実態となし崩しの再稼働 原発ゼロ時代のエネルギー政策の展望 原発ゼロ社会を創造するために	一般・技術	539ヶ	
172	ふくしまの子ども		いとう みわこ: 絵	2013.3	酒井祥二	みどりとお兄ちゃんをよく浜辺できれいな貝をあつめていました。海が大好きだったふたりですが、ある日巨大地震が起きて…震災からの復興を願うお話。	書庫	E イ	
171	福島第一廃炉の記録		西澤 丞 // 著	2018.3	みすず書房	今も現場で一生懸命に働いている、数千の人がいる。福島第一原子力発電所の廃炉作業を撮影した記録写真集。現場の生の風景を伝える和英併記の解説付き。東京電力ホールディングスのウェブサイト掲載の作品を収録。	一般・技術	543ニ	
170	すごい廃炉	福島第1原発・工事秘録	日経コンストラクション // 編	2018.2	日経BP社	7年近くの取材の成果を基に、福島第1原発の廃炉の作業や工事を詳細かつわかりやすく解説しながら、その技術や現場の空気を篠山紀信の写真とともに伝える。福島県双葉町の「帰還困難区域」の風景も収録。	一般・技術	543ス	複本あり
169	それでも原発が必要な理由		櫻井 よしこ: 著	2017.6	ワック	世界一の水準にある日本の原発技術を維持、進歩させて、世界の先進国のお手本にならなければならない。櫻井よしこと奈良林直が福島第一原発事故を徹底検証し、日本の原子力技術の必要性や、原子力規制行政について語り合う。	一般・技術	539サ	
168	東電原発裁判	福島原発事故の責任を問う	添田 孝史 // 著	2017.1	岩波書店	2017年春、福島原発事故における東京電力の刑事責任を問う初公判が開かれた。津波の予見は不可能とする被告の主張は真実なのか。裁判を通じて明らかにされたデータと証拠から、事故の原因をあらためて検証する。	一般・技術	543ソ	
167	忘れたくない忘れない・・・	山の向こうに原発が見える・・・	高木 徹: 作・画	2017.2	国際ソロプチ ミストマリンいわき	東日本大震災による原発事故のさいの、福島県双葉郡の人々の過酷な避難、そんな中での美談。あの苦しみは忘れたくない、でも美しい故郷の思い出は忘れたくない。木戸川のサケ漁、双葉郡の稲作再開・・・年月の経過とともに忘れ去られる東日本大震災。次の世代の人たちに真実の姿を伝える絵本。	郷土資料	726タ	

166	世界が見た福島原発災害		6 大沼 安史 // 著	2017.9	緑風出版	福島原発災害を伝える海外メディアを追い、政府・マスコミの情報操作を暴き、事故と被曝の全貌と真実に迫る。6は、5巻発刊(2016年9月)以降の福島第一原発をめぐる状況・情勢をまとめる。	一般・技術	543 オ	
165	原発事故6年目現地情報から読み解くふるさと福島		佐藤 政男 // 著	2017.2	合同フォレスト	原発事故の影響とは? 2011年3月11日を徳島で迎え、2012年末に福島へ戻った著者が、現地の実態、客観的なデータを紹介し、原発再稼働について考察する。『新しい薬学をめざして』連載を書籍化。	一般・技術	543 サ	
164	フクシマは核戦争の訓練場にされた	東日本大震災「トモダチ作戦」の真実と5年後のいま	石井 康敬 // 著	2017.2	旬報社	2011年3月11日以来、陸海空海兵の米4軍の放射線部隊が日本国内に展開し、各地の放射能や放射線の測定を行っていた。東日本大震災「トモダチ作戦」を分析し、これまで報道されなかった真実を明らかにする。	一般・技術	543 イ	
163	福島インサイドストーリー	役場職員が見た原発避難と震災復興	今井 照 // 編著	2016.1	公人の友社	原発避難と震災復興のリアルを、当事者の一員であった役場職員らが語る。自治体の行政組織という視点から、原発事故を含む緊急対応のあり方について課題のありかを示す証言録。	一般・技術	543 フ	
162	原発賠償の打ち切り問題と『人間の復興』に必要な支援を考える	震災・原発事故5年シンポジウム記録誌	福島県弁護士会:編	2016	福島県弁護士会	平成28年3月6日、いわき市で開催された「原発の賠償の打ち切り問題と『人間の復興』に必要な支援を考える」シンポジウムの記録誌。	書庫	543 フ	
161	世界が見た福島原発災害		5 大沼 安史 // 著	2016.9	緑風出版	福島原発災害を伝える海外メディアを追い、政府・マスコミの情報操作を暴き、事故と被曝の全貌と真実に迫る。5は、福島第一原発事故から5年目となる2016年の上半期の状況を中心にまとめる。	一般・技術	543 オ	
160	福島第一原発廃炉図鑑		開沼 博 // 編	2016.6	太田出版	「福島第一原発廃炉の現場」の内実を正面から記録した一冊。福島第一原発廃炉の実態や、廃炉を支える地域とそこに生きる人たちなどを、マンガや図、関係者らのインタビューを交えてわかりやすく紹介する。	書庫	543 フ	
159	再びの朝		風見 梢太郎:著	2015.5	新日本出版社	福島第一原発事故を契機に、かつての学生運動仲間と専門的知識を共有しながら原発ゼロの運動をすすめる主人公と、その心意気に共感した職場の若者たちを描く長編。『しんぶん赤旗』連載を書籍化。	一般・日文	914 カ	
158	双葉町を襲った放射能からのがれて	わたしたちの証言集	双萩会	2016.3	双萩会	福島第一原子力発電所事故により、県内外避難を余儀なくされた双葉町の人々の証言集。後世に語り継ぎ、悲惨な人災事故が二度と起きないように語り継ぐ。図版として福島県・双葉町町内地図、双葉町役場の避難経路と役場機能、双葉町民の都道府県別避難者について掲載。	郷土資料	369 ソ	

157	もどれない故郷ながどろ	飯館村帰還困難区域の記憶	長泥記録誌編集委員会 // 編	2016.3	芙蓉書房出版	福島第一原発事故から5年。原発から最も離れた帰還困難区域・福島県飯館村長泥行政区の生活の記憶を後世に伝えるための記録誌。「写真で見る長泥」と「聞き書きでたどる長泥」の2部で構成。見返しに記事あり。	一般・技術	543 モ	
156	いちえふ	3/福島第一原子力発電所労働記	竜田 一人 // 著	2015.1	講談社		一般・芸術	726 タ	
155	フクシマ発	イノシシ5万頭、廃炉は遠く…人びとはいかに這いあがるか	フクシマ未来戦略研究所 // 企画編集	2015.1	現代書館	原発事故から4年、中間総括が必要な時期が来た。福島に関する各界の知識人や街の人々による論稿集。「福島の現状を問う」をテーマに、星亮一が開沼博ら5人にインタビューするほか、和合亮一の詩、フクシマの声などを収録。	書庫	543 フ	
154	福島10の教訓	原発災害から人びとを守るために	福島ブックレット刊行委員会:編	2015.3	福島ブックレット刊行委員会	2011年3月11日の東日本大震災を直接の原因とする東京電力福島第一原子力発電所における原発災害の被害を受け、また受け続けている日本の私たちから、世界のみなさんへのメッセージ。	一般・技術	543 フ	
153	原発避難白書		関西学院大学災害復興制度研究所 // 編	2015.9	人文書院	原発事故では、どれだけの人が、いつ、どこへ、どのようにして避難したのか。そして現在、彼らを取り巻く状況とはどのようなものなのか。ジャーナリスト、弁護士、研究者、支援者、被災当事者が結集し、被害の全貌を描く。	書庫	543 ケ	
152	福島原発事故賠償の研究		淡路 剛久 // 編	2015.5	日本評論社	東日本大震災を契機に福島第一原子力発電所で深刻な事故が起こってから4年。全国各地で多数の被害者救済訴訟が提訴されている。深刻な被害を救済するための新たな損害賠償法理を模索する。	一般・技術	543 フ	
151	朝日新聞「吉田調書報道」は誤報ではない	隠された原発情報との闘い	海渡 雄一 // 著	2015.5	彩流社	2011年3月15日の朝、福島第一原発では何が起きたのか。隠された真実を明らかにするために努力したのは誰なのか。吉田調書報道を担った朝日新聞記者に対する誹謗中傷を否定する。津波対策の放棄に関する新事実も掲載。	一般・総記	70 ア	
150	原子力災害からの生活再建と地域の復興	住民の円滑な帰還に向けて	福島県弁護士会:編	2015.4	福島県弁護士会	平成26年9月6日に開催された「日本弁護士連合会第57回人権擁護大会プレシンポジウム」記録誌。原発事故で奪われたものとは何か 住民被害の回復と地域の再生にむけて。	書庫	369 フ	
149	被曝評価と科学的方法		牧野 淳一郎 // 著	2015.3	岩波書店	福島第一原発事故に関するデータの解釈が、被害を過小にみせる方向にゆがんでいる例が多数ある。発表を鵜呑みにするのではなく、不十分なデータからでも科学的にいえることを導き出すために、自ら計算し確認する方法を示す。	書庫	493 マ	

148	世界が見た福島原発災害	4	大沼 安史 // 著	2015.3	緑風出版	福島原発災害を伝える海外メディアを追い、政府・マスコミの情報操作を暴き、事故と被曝の全貌と真実に迫る。4は、国内外、とりわけ海外のメディアが報じた、知られざるニュースや漏れ出した情報を集積する。	一般・技術	543 オ	
147	全電源喪失の記憶	証言・福島第1原発-1000日の真実	高橋 秀樹 // 編著	2015.3	祥伝社	福島第一原発事故が最も過酷な経過をたどった発生からの5日間に焦点を当て、関係者が「何を見て」「何を思ったのか」を、実名証言により事実に沿って再現する。共同通信社配信の連載記事に加筆修正し単行本化。	一般・技術	543 タ	
146	電力と震災	東北「復興」電力物語	町田 徹 // 編著	2015.2	日経BP社	東日本大震災時、東京電力と比べて際立った対応を見せた東北電力を取り上げ、震災後の電力事業のあり方を問うノンフィクションの特別版。津波で被害にあった火力発電所の様子や、復旧作業などを写真で紹介する。	書庫	540 マ	
145	牛と土	福島、3.11その後。	眞並 恭介 // 著	2015.3	集英社	東日本大震災で被曝地となった福島で、殺処分を受け入れず被曝した牛を生かそうとする牛飼いたちと、帰還のため土壌の調査に奮闘する研究者たち。両者への丹念な取材を重ね、失ったものは何かを問いかけるノンフィクション。	一般・産業	645 シ	
144	福島のおコメは安全ですが、食べてくれなくて結構です。	三浦広志の愉快的闘い	かたやま いずみ // 著	2015.3	かもがわ出版	福島第一原発が立地している「浜通り農民連」の副会長を務める、「愉快的に闘う農民」三浦広志。彼は何を考えて闘っているのか。こんな現状のなかで何が楽しいのか。取材を通してその姿を伝える。	一般・産業	612 カ	
143	いちえふ	2/福島第一原子力発電所労働記	竜田 一人:著	2015.2	講談社	福島第一原発で作業員として働いた作者が描く原発ルポターゲット漫画。-2012年秋、竜田は6次下請け企業からの脱出を図り、念願の建屋内作業の職に就く。2012年末、一旦、漫画家としての活動を始めた竜田だったが、実は2014年夏、彼はふたたび作業員として1F(いちえふ)で働いていた。	一般・芸術	726 タ	
142	福島県行政書士会 東日本大震災・原発事故記録集	フクシマで生きる	東日本大震災・原発事故記録集編さんプロジェクトチーム:編	2015.1	福島県行政書士会	東日本大震災発生直後から現在まで、福島県行政書士会、各支部、会員と供に活動してきた記録集。	一般・社会	327 ヒ	
141	しろさびとまっちゃん	福島の保護猫と松村さんの、いいやんべえな日々	太田 康介 // 著	2015.2	KADOKAWA	福島第一原発近くの富岡町にひとり留まり、とり残された動物たちと暮らしている松村さんは、保健所行きになりそうな白猫のしろ、さび柄猫のさびの姉妹を引き取った。福島の片隅で生きる、松村さんとしろ・さびの写真物語。	一般・産業	645 オ	

140	原発事故に立ち向かった吉田昌郎と福島フィフティ		門田 隆将 // 著	2015.3	PHP研究所	福島第一原発事故発生後、吉田所長と現場の人たちは、ぎりぎりの状況のなかで何を感じ、どうたたかったのか。ノンフィクション作家が鮮明に描き出す。子供たちへのメッセージ&福島の子供たちの絵も掲載。	児童・技術	543 カ	
139	福島と原発	3	福島民報社編集局 // 著	2015.2	早稲田大学出版部	原発事故は収束していない。避難が続く限り、原発事故関連死の終わりはない。地元紙が寄り添い伝えた、震災と原発事故という未曾有の災害に見舞われた福島県民の生と死の記録。『福島民報』連載を単行本化。	一般・技術	543 フ	
138	福島で生きていく		木田 恵嗣 // 著	2014.1	いのちのことは社	人々の記憶から消しさられていく福島第一原発の事故。放射能汚染の広がりが続くなか、小児甲状腺ガンをはじめ健康被害に不安をいだく福島の実況を、福島に関わるふたりの牧師の対談を通して紹介する。	書庫	543 キ	
137	高レベル放射性廃棄物の最終処分について		日本学会会議事務局:編集協力	2014.1	公益社団法人日本学術協力財団	放射性物質の最終処分についての問題提起や参考情報提起をし、いかに放射性廃棄物を安全に管理していくかという課題を考える道しるべとなる書。	一般・技術	539 ニ	
136	国会事故調 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 調査報告書 要約版		東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	2012.6	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	「国会事故調」(本編)を要約したもの。目次:調査の概要、結論と提言、要旨、付録	一般・技術	543 ト	
135	国会事故調 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 調査報告書 参考資料		東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	2012.6	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	「東京電力福島原子力発電所事故調査委員会報告書」(本編)の記載について補足説明や情報を追加掲載したもの。参照用資料と、被災住民へのアンケート及び福島第一原子力発電所従業員へのアンケートの調査・分析結果から成る。	一般・技術	543 ト	
134	国会事故調 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 調査報告書 本編		東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	2012.6	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	調査の概要、結論と提言、要旨、本文詳細(事故は防げなかったのか?、事故の進展と未解決問題の検証、事故対応の問題点、被害状況と被害拡大の要因、事故当事者の組織的問題、法整備の必要性)、付録	一般・技術	543 ト	
133	国会事故調 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会 調査報告書 会議録		東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	2012.6	東京電力福島原子力発電所事故調査委員会	開催された19回の国会事故調査委員会、及び3回のタウンミーティングの会議録。委員会の模様は日本語・英語で動画配信され、国会事故調HPにて視聴可能。	一般・技術	543 ト	
132	原発事故被害者支援活動シンポジウムの記録	「原発事故で奪われたものは何か」～住民被害の回復と地域の再生に向	福島県弁護士会:編	2014.3	福島県弁護士会	2013/9/6被災地視察(川内・富岡方面/南相馬・浪江方面)、2013/9/7シンポジウム・ワークショップ	書庫	543 フ	

131	失われた町からの声	福島／残る人・ 去った人	名越 智恵子:著	2013.1	名越 智恵子	1章 放射線の基礎知識 2章 原子力発電の現状 3章 放射線はどれだけ怖い 4章 エネルギー問題 5章 福島の復興を願って	一般・技術	543 ナ	
130	「吉田調書」を読み解く	朝日誤報事件と現場の真実	門田 隆将 // 著	2014.1	PHP研究所	朝日新聞によってねじ曲げられた政府事故調査・検証委員会の「吉田調書(聴取結果書)」。福島第一原発の現場を直接取材した著者が、「吉田調書」の真実を記し、その時々のも所長・吉田昌郎や現場の人々の思いを伝える。	一般・技術	543 カ	
129	放射線と登山道		野口 邦和:監修	2012.8	桐書房	福島第一原発事故で放出された放射性物質による山々の汚染状況を調査。福島県をはじめ東北、関東など130カ所以上の山と登山道を測定し、分析したデータをまとめる。2012年5月の講演会の内容を書籍化。	一般・技術	543 ノ	
128	原発の放射能ごみはどこへ	みんなで考えよう 増え続ける放射性 廃棄物のこと	わたなべ てるお // 著	2014.1	研成社	これからも増え続けるであろう放射性廃棄物の最終保管場所の決め方から、原発事故で被災した人々への対策、放射能の危険性、原発政策の検討まで、問題を提起しながらまとめる。	一般・技術	539 ワ	
127	さまよえる町	フクシマ曝心地の 「心の声」を追って	三山 喬 // 著	2014.1	東海教育研究所	「原発で潤ってきた町」と避難先での白眼視に遭うなかで、語るべき「ことば」さえ失った町民は、これからどこで、どう生きようとしているのか。福島原発事故で全町避難となった大熊町と、さまよう人々の姿を描き出す。	一般・技術	543 ミ	
126	知ろうとすること。		早野 龍五 // 著	2014.1	新潮社	福島第一原発の事故後、情報が錯綜する中で、ただ事実を分析し、発信し続けた物理学者・早野龍五と、その姿勢を尊敬し、自らの指針とした糸井重里が、放射線の影響や「科学的に考える力の大切さ」を語る。	文庫	543 ハ	
125	日本「原子カムラ」惨状記	福島第1原発の真実	桜井 淳 // 著	2014.9	論創社	2011年3月11日に発生した福島第一原発事故後に焦点を絞り、事故調査手法や事故調報告書の内容について、それにかかわったひとたちの専門性や社会対応を中心に、独自の分析手法と工学的専門知識を基にまとめる。	書庫	539 サ	
124	までいな村、飯舘	酪農家・長谷川健一が語る	長谷川 健一 // 著	2014.7	七つ森書館	東日本大震災から3年。福島第一原発事故により全村避難を余儀なくされた飯舘村では、いまなお避難生活が続く。飯舘村で起きたこと、飯舘村民として伝えたいことを、酪農を営んできた著者が、自ら記録した写真とともに綴る。	一般・日文	916 ハ	

123	いちえふ	1/福島第一原子力発電所労働記	竜田 一人: 著	2014.4	講談社	福島第一原発で作業員として働いた作者が描く原発ルポタージュ漫画。メディアが報じない福島第一原発とそこで働く作業員の日常、そしてこの先、何十年かかるともされない廃炉作業の現実をあくまでも作業員の立場から描写。	一般・芸術	726 タ	
122	あなたの福島原発訴訟	みんなして「生業を返せ、地域を返せ!」	『生業を返せ、地域を返せ!』福島原発訴訟原告団 弁護団 // 編	2014.6	かもがわ出版	国と東電の責任を明らかにするため、2600人を超える原告団が参加する「生業を返せ!地域を返せ!」福島原発訴訟。裁判の概要と目的、原告団の目指すものなどを紹介するとともに、裁判への参加をよびかける。	一般・技術	543 ア	
121	ビデオは語る	福島原発緊迫の3日間	東京新聞原発取材班 // 編	2014.5	東京新聞	2012年に公開された、福島第一原発事故発生当初の東電本店と現地対策本部を結んだテレビ会議の映像を徹底分析し、やりとりを細部まで再現する。福島第一原発所長らのインタビューも掲載。『東京新聞』連載を単行本化。	一般・技術	543 ビ	
120	検証福島原発1000日ドキュメント	よくわかる、発生から事故処理まで原発を考えるうえでの必須資料		2014.5	ニュートンプレス	福島第一原子力発電所の事故が発生してから3年が経過した。この間、事故はどのような経過をたどってきたのか。事故の発生から、事故によってひきおこされた災害、事故の後処理の現状までを、科学的かつ客観的に紹介する。	書庫	543 ケ	
119	放射能なんかに負けないぞ	飯舘村教育長の震災記録	広瀬 要人: 著	2014.1	創栄出版	放射能汚染による全村避難という厳しい状況の中で、飯舘村は教育にどう取り組んできたのか。膨大な資料と記録を基に、発災から2年間の飯舘村の、子どもを手間暇かけて丁寧な育てる“ままでい教育”をまとめる。	書庫	372 ヒ	
118	百人百話	第2集	岩上 安身 // 著	2014.4	三一書房	未曾有の大地震と津波、そして福島第一原発事故。福島で暮らしてきた人々の思いとは…? 2011年10月から2012年1月にかけてロングインタビューを行った27人の語りをまとめる。	一般・技術	543 イ	
117	境界の町で		岡 映里 // 著	2014.4	リトルモア	福島県浜通り、検問のある町。正直に言えば、私をはじめに福島に来たのは興味本位からだ。東日本大震災後の福島風景、土地、人を描写する。見返しに地図あり。	一般・技術	543 オ	
116	除染労働		被ばく労働を考えるネットワーク // 編	2014.3	三一書房	福島原発事故後の除染事業では、「原発安全神話」同様に、事実と根本的問題が隠蔽されている。除染労働での問題事例とそれに対する取り組みを報告し、除染事業・除染労働の問題を明らかにする。「原発事故と被曝労働」の続編。	一般・技術	543 ジ	

115	福島原発22キロ高野病院奮戦記	がんばってるねじむちよー	井上 能行 // 著	2014.3	東京新聞	東京電力福島第一原発の事故後も地域医療に奮戦する高野病院。事故による多忙と混乱、退避せずの判断、入院患者移送の苦勞、看護師不足の悩み、行政・東電との丁々発止。厳しい環境もユーモアで乗り切ってきた事務長の奮闘記。	一般・技術	543 イ	
114	検証福島原発事故・記者会見	3		2014.2	岩波書店	福島原発事故から3年。漏れ続ける汚染水、収束作業に取り組む作業員の不足、被災者の置かれている状況、東電が国会事故調査委員会に行った虚偽説明などについて検証し、国の対応を厳しく問う。	書庫	543 ケ	
113	「放射能汚染地図」の今		木村 真三 // 著	2014.2	講談社	福島第一原発事故は終わっていない。福島で調査や放射線防護の学習活動を続ける科学者が、闘いの前線、市民科学者を育てる理由、放射能がもたらす分断など、3年におよぶ真実の記録を綴る。	書庫	493 キ	
112	フクシマ発復興・復旧を考える県民の声と研究者の提言		星 亮一 // 著	2014.2	批評社	原発事故から復旧復興をしなければならないフクシマをどう考えるべきか。福島大学ふくしま復興支援センターの2人の研究者と、福島県在住のジャーナリストが、県民の声と研究者の提言をまとめて発信する。	一般・技術	543 フ	
111	フクシマカタストロフ	原発汚染と除染の真実	青沼 陽一郎 // 著	2013.1	文藝春秋	福島の子どものたちの甲状腺に異変が起きている。低線量被曝による健康被害、汚染水漏れが止まらない本当の理由…。福島の原発事故後2年間の取材をもとに、チェルノブイリと福島に共通する過ちの連鎖を明らかにする。	一般・技術	543 ア	
110	アウト・オブ・コントロール	福島原発事故のあまりに苛酷な現実	小出 裕章 // 著	2014.1	花伝社	原発とはどういうものか、福島でどれほど苛酷な事故を起こしたのか、収束作業が続く現場にどれほどの危険が潜んでいるのかを図版とともに解説する。2013年10月鴨川市で開催された講演の記録。	書庫	543 コ	
109	終わらない原発事故と「日本病」		柳田 邦男 // 著	2013.1	新潮社	先が見えない原発汚染水問題、相次ぐ列車事故、常態化した食品偽装…。数多くの災害・事故現場を半世紀にわたって取材してきた著者が、福島第一原発事故の問題点と、日本の社会システムに蔓延する病魔を明かす。	一般・日文	914 ヤ	
108	東日本大震災および原発事故によって生じた避難生活の実態と課題		公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構:編	2013.6	公益財団法人福島県青少年育成・男女共生推進	インタビューや体験談などから、避難の状況、ネットワークについて、課題などをまとめたもの。	郷土資料	369 コ	
107	除染は、できる。	Q&Aで学ぶ放射能除染	山田 國廣 // 著	2013.1	藤原書店	風評被害を打破するために十分な水準まで数値を改善する住民参加型の除染方法を紹介。効果があがる具体的な方法や完全保管の方法もQ&Aで解説する。実践例、実証実験データも収録する。	一般・技術	539 ヤ	

106	福島第一原発収束作業日記	3・11からの700日間	ハッピー // 著	2013.1	河出書房新社	あの時、何が起きていたのか? 今、何が起きているのか? 進まぬ汚染水処理、劣悪な労務環境、困難を極める廃炉作業…。福島第一原発現場作業員による、3・11から綴られた「生」の手記。Twitterを抜粋して書籍化。	一般・技術	543 ハ	
105	福島原発事故東電テレビ会議49時間の記録		福島原発事故記録チーム // 編	2013.9	岩波書店	東電が隠し続けたテレビ会議映像記録。電源の調達や注水の失敗、迫り来る格納容器爆発の危機、そして、撤退計画の浮上…。初期対応を巡る「運命の49時間」に刻まれた東電幹部の肉声をすべて明らかにする。	書庫	543 7	
104	福島原発事故 県民健康管理調査の間		日野 行介 // 著	2013.9	岩波書店	福島原発事故で放出された放射能。住民の健康への影響を調べる福島県の調査の裏で、専門家、行政担当者たちは何をしていたのか。秘密裏の会議、議事録の改竄…。“間”に立ち向かった一人の記者が、その実態を明らかにする。	一般・技術	543 ヒ	
103	東電原発事故被災病院協議会会議録Ⅱ	第16回～第23回	福島県病院協会:編	2013.9	福島県病院協会	東電原発事故被災病院協議会の経過(平成24年9月11日～平成25年5月14日)	一般・自然	498 7	
102	東電原発事故被災病院協議会会議録	第1回～第15回	福島県病院協会:編	2012.9	福島県病院協会	東電原発事故被災病院協議会の経過(平成23年5月16日～平成24年8月6日)	一般・自然	498 7	
101	避難弱者	あの日、福島原発間近の老人ホームで何が起きたのか?	相川 祐里奈 // 著	2013.8	東洋経済新報社	福島原発事故による高齢者福祉施設の避難の記録。福島県内の20施設の取材を通し、6施設の避難過程を克明に描くほか、高線量地域に「残る」決断をした特別養護老人ホームの取り組み、介護士たちの奮闘と葛藤などを紹介する。	書庫	543 7	
100	福島から問う教育と命		中村 晋 // 著	2013.8	岩波書店	福島第一原発事故は福島県の学校や子どもたちに深刻な影響を及ぼした。こうした状況を子どもたちはどう受け止めているのか。いま教育は何をすべきか。福島の高校教諭と、丹念に現地調査を続ける教育学者が根本から問いかける。	書庫	372 ナ	
99	福島と原発	誘致から大震災への50年	福島民報社編集局 // 著	2013.6	早稲田大学出版部	福島県民はこれからも復旧・復興への闘いを続けていかなければならない。地元紙が見た人々の期待と現実。東京電力福島第一原発と地域との関わりを検証し、地元の見線で原発の功罪を問う。『福島民報』連載を単行本化。	一般・技術	543 7	
98	専門家が答える暮らしの放射線Q&A		日本保健物理学会「暮らしの放射線Q&A活動委員会」// 著	2013.7	朝日出版社	福島第一原発事故後の放射線に関する質問に、放射線防護の専門家が答えた記録。ウェブサイト『専門家が答える暮らしの放射線Q&A』に掲載された多くの質問・回答から代表的な80件を抜粋。	書庫	493 セ	
97	これからのエネルギー		槌屋 治紀 // 著	2013.6	岩波書店	東日本大震災と福島第1原子力発電所の事故以来、日本のエネルギーをめぐる状況は急速に変化している。再生可能エネルギーの技術レベルと展開予測をあわせ、何が実現可能なのかを検討する。	ティーンズ	501 ツ	

96	あの日からずっと、福島・渡利で子育てしています		佐藤 秀樹 // 著	2013.6	かがわ出版	福島第一原発事故後も、私は妻と3人の子どもと一緒に、放射線量の高い福島市渡利で暮らしている。東日本大震災から3年目の春、福島市渡利で生活する家族の思いや願いを、地域の子どもやおとなの姿とともに伝える。	一般・技術	543 サ	
95	脱フクシマ論		星 亮一 // 著	2013.6	イースト・プレス	今、「フクシマ」に何が求められているのか。大きく変わりつつある被災者の意識とは何か。3・11直後から警戒区域に入り、丹念な取材を重ねた著者による2年間の取材記録と、真の復興への提言集。	一般・技術	543 ホ	
94	被災地から問うこの国のかたち		玄侑 宗久 // 著	2013.6	イースト・プレス	平時のシステムと論理でなにか復興か。2011年3月15日午後の放射線量は福島エリアだけ情報隠蔽されていた。玄侑宗久、和合亮一、赤坂憲雄の福島を代表する賢者達が「この国の病根」を問い、福島からの提言をまとめる。	一般・技術	543 ヒ	
93	ゾーンにて		田口 ランディ // 著	2013.5	文藝春秋	福島第一原発から半径20キロ圏内は警戒区域となった。人が立ち入ることのできない場所「ゾーン」に棲むものたち。極限に生きる命の輝きを描いた4篇を収録。『オール讀物』掲載作品をまとめて単行本化。	一般・日文	914 タ	
92	福島原発事故はなぜ起こったか	政府事故調核心解説	畑村 洋太郎 // 著	2013.4	講談社	私たちは福島原発事故から何を学んだのか？ 畑村委員長はじめ、事故調中心メンバーが調査でわかったこと、そして報告書に書けなかったことを含め、政府・自治体・東京電力の失敗の本質をズバリ解説する。	書庫	543 フ	
91	東日本大震災・福島原発災害と広島大学		広島大学:編		広島大学	第1章:2年間の被ばく医療支援を振り返る 第2章:ヒロシマからフクシマへ 第3章:被災地に寄り添う、ほか	書庫	543 ヒ	
90	放射線と健康 本当に私たちが知りたい50の基礎知識		黒部 信一 // 著	2013.3	東京書籍	子どもと大人では放射線の影響が違うのか？ 放射線はからだのどこに蓄積する？ 小児科医が、福島第一原発事故後の放射線、放射性物質と人間の健康との関係を、放射線を受ける市民の側に立ってわかりやすく解説する。	書庫	493 ク	
89	検証福島原発事故・記者会見	2		2013.2	岩波書店	福島原発事故「収束」宣言後も、事故現場の過酷さ、被災者の苦境は変わっていない。東電・政府はこの1年、何をやってきたのか。マスコミは何をどう報じてきたのか。取材を重ねた著者が、欺瞞に満ちた「収束」の虚妄を暴く。	書庫	543 ケ	
88	徹底検証!福島原発事故何が問題だったのか	4事故調報告書の比較分析から見えてきたこと	日本科学技術ジャーナリスト会議 // 編	2013.3	化学同人	あの事故は何だったのか。なぜ起こったのか。科学ジャーナリスト集団が57の観点から、福島第一原発事故における4つの事故調報告書を徹底分析し、問題点と進むべき道を探る。座談会、資料も収録。	書庫	543 テ	

87	石炭火力が日本を救う	CO2神話の崩壊	木本 協司 // 著	2013.2	現代書館	「原発は絶対安全」という神話は、福島第一原発事故により完全に打ち砕かれた。地震活動期に入った日本のエネルギー戦略として、経済的で安全な石炭火力へのシフトが最も現実的であることを主張する書。	一般・技術	501 キ	
86	3・11福島から東京へ	広域避難者たちと歩む	東京災害支援ネット // 編著	2013.2	山吹書店	避難所に炊き出しを届け、情報を届け、相談活動やニーズ調査をおこない、国や東京都、東電への要請を繰り返し、集会を開催する…。3.11のあとまもなく設立された避難者支援団体「とすねっと」の活動の記録。	一般・技術	543 サ	
85	よくわかる放射線・放射能の問題	基礎知識から除染・廃棄物処理まで	矢沢サイエンスオフィス // 編著	2013.2	学研教育出版	放射能や放射線の問題を科学的に、だれでも理解しやすいように初歩から解説。放射能とは何か、放射線はどこからやってくるのかといった基礎知識から、福島第一原発の事故、放射線の被曝を避ける方法まで幅広く取り上げる。	児童・技術	539 ヨ	
84	福島原発で何が起きたか	政府事故調技術解説	淵上 正朗 // 著	2012.1	日刊工業新聞社	東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会による報告書を会の主要メンバーがわかりやすく説明し、報告書には書かれていない内容や、やや踏み込んだ意見・考察を記す。事故を理解する上で必要な勘どころも掲載。	書庫	543 フ	
83	セシウムをどうする	福島原発事故除染のための基礎知識	小松 優 // 監修	2012.1	日刊工業新聞社	放射性セシウムはどんなもので、人体にどう影響があるのか。また除染するには、現在どんな方法が考えられていて、実現するにはどのような問題点があるのかなどについて、わかりやすく解説する。	一般・技術	539 セ	
82	福島核災棄民	町がメルトダウンしてしまった	若松 丈太郎 // 著	2012.1	コールサック社	繰り返される核災で、私たちは何を失ったのか？ 被曝福島の哀しみを凝視した詩人の、慟哭の書。加藤登紀子が歌う「神隠しされた街」を収録したCD付き。	一般・技術	543 ワ	
81	検証東電テレビ会議		朝日新聞社 // 著	2012.1	朝日新聞出版	報道機関のみに公開された大震災後の3月11日午後6時27分から3月16日午前0時2分までに及ぶ「テレビ会議録」を徹底検証。福島第一原発事故への対応が克明に記された60万字分の記録から浮かびあがる、あの日の真実。	書庫	543 ケ	
80	4つの「原発事故調」を比較・検証する	福島原発事故13のなぜ？	日本科学技術ジャーナリスト会議 // 著	2013.1	水曜社	直接的な原因は地震か、津波か？ 事故処理のリーダーは、なぜ決まらなかったのか？ 福島原発事故についての政府・国会・東電・民間の4つの事故調査委員会による報告書を、科学ジャーナリストたちが独自の視点で分析する。	書庫	543 ヨ	
79	死の淵を見た男	吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日	門田 隆将 // 著	2012.1	PHP研究所	福島第一原発事故の、考えられうる最悪の事態の中で、現場はどう動き、どう闘ったのか。福島第一原発所長として最前線で指揮を執った吉田昌郎のもと、使命感と郷土愛に貫かれて壮絶に闘った人々の物語。	一般・技術	543 カ	
78	福島原発事故と女たち	出会いをつなぐ	近藤 和子 // 編	2012.1	梨の木舎	恐怖と絶望と無力感、その中で女たちは…。東京電力福島原発事故の被害者・当事者である福島の女たちの声を集めた記録。14人の体験談のほか、コラム、資料なども収録。	書庫	543 フ	

77	フタバから遠く離れて	避難所からみた原発と日本社会	船橋 淳 // 著	2012.1	岩波書店	東日本大震災と原発事故により、原発立地自治体である福島県双葉町は、町ごとの避難を強いられた。避難所に密着した、同名のドキュメンタリー映画を撮影した監督が、そこでの生活を描きだす。町長へのインタビューも収録。	一般・技術	543 7	
76	原発事故と被曝労働		被ばく労働を考えるネットワーク // 編	2012.1	三一書房	深刻化する収束・除染作業、拡散する被ばく労働現場…。今も隠蔽されている「3.11」後の被ばく労働の問題の一端を暴露し、社会的な取り組みを模索する。	一般・技術	543 ケ	
75	ルポ イチエフ	福島第一原発レベル7の現場	布施 祐仁 // 著	2012.9	岩波書店	高濃度の放射性物質に汚染された原発事故の現場で、日夜働く作業員たち。劣悪な労働環境、横行する違法派遣・請負、労災隠し、ピンハネされる危険手当…。それでもなぜ、彼らは働くのか。作業員の肉声を伝える。	一般・技術	543 7	
74	淡水魚の放射能	川と湖の魚たちがいま何が起きているのか	水口 憲哉 // 著	2012.9	フライの雑誌社	チェルノブイリ事故をはじめ、世界の知られざる淡水魚の放射能汚染をくわしく掘り起こす。また、福島第一原発の重大事故により、いま日本の川と湖の魚たちに起きている放射能汚染の実態を見つめ、汚染の仕組みを考える。	一般・技術	519 ミ	
73	フクシマの正義	「日本の変わらなさ」との闘い	開沼 博 // 著	2012.9	幻冬舎	「脱原発」「放射能から子どもを守れ」声高に叫ばれる正義が、新たな犠牲を生んでいないか。3・11後、ますます大きくなる日本社会の歪みを抉り出す。雑誌、新聞等掲載の評論、エッセー、ルポ、対談をまとめる。	書庫	539 カ	
72	証言 細野豪志	「原発危機500日」の真実に鳥越俊太郎が迫る	細野 豪志 // 著	2012.8	講談社	総理補佐官として東電本店に常駐。そして、原発事故担当相に就任し、事故対応の最前線に立った政治家・細野豪志が、ジャーナリスト・鳥越俊太郎との対談形式のインタビューで、その闘いの記録と官邸の攻防のすべてを語る。	一般・技術	543 ホ	
71	官邸の100時間	検証福島原発事故	木村 英昭 // 著	2012.8	岩波書店	2011年3月11日午後2時46分。巨大地震・津波に続き、東京電力福島原子力発電所が軋みを上げた。あのとき、国家権力の中枢で何が起きていたのか？当事者への徹底的な取材で、「運命の100時間」を炙り出す。	一般・技術	543 キ	
70	原発危機 官邸からの証言		福山 哲郎 // 著	2012.8	筑摩書房	2011年3月11日に起きた東京電力福島第一原発事故。当時の官房副長官が、自らのノートをもとに、官邸から見た原発危機の緊迫した状況を再現し、知られざる真相を明らかにする。	書庫	543 7	
69	原発とは結局なんだったのか	いま福島で生きる意味	清水 修二 // 著	2012.7	東京新聞	「ふくしま」はこれからどうなっていくのか。社会科学的な観点から原発を批判し続けてきた著者が、福島やチェルノブイリの惨禍を通して「原発とはなにか」を問う。1984年に執筆した短篇小説「雨-または逃走譚」も収録。	書庫	543 シ	

68	がれき処理・除染はこれでよいのか		熊本 一規 // 著	2012.7	緑風出版	東日本大震災に伴う、がれき処理の問題点を指摘。焼却に伴って放射性物質が排出されるか否かの疑問に答えるとともに、なぜ、放射性物質の「処理の大原則」に反した「全国的広域処理」が打ち出されたのかを解明する。	一般・技術	543 ク	
67	福島原発事故独立検証委員会	調査・検証報告書	福島原発事故独立検証委員会/編	2012.3	ディスカヴァー・トゥエンティワン	若手や中堅の自然科学・工学者や人文科学の研究者、実務家、弁護士、ジャーナリストたちを中心とする約30人のワーキンググループが、資料集めや関係者へのヒアリング調査を元にまとめた福島原発事故の調査・検証報告書。	一般・技術	543 イ	
66	生きる	原発避難民のみつめる未来	朝日新聞特別取材班 // 著	2012.6	朝日新聞出版	福島第一原発事故で避難した、全国に散らばる福島県民たちの生きる姿を多層的にすくい取るドキュメンタリー。避難民18人のストーリー、福島大学・朝日新聞による継続聞き取り調査の結果を収録。	書庫	543 イ	
65	避難する権利、それぞれの選択	被曝の時代を生きる	河崎 健一郎 // 著	2012.6	岩波書店	2011年3月11日に始まる一連の原発事故以降、行政による避難指示区域の外側でも、避難する人が増えている。避難を選んだ人、留まっている人の現状報告とともに、直面していること、関連の制度などを具体的に解説する。	書庫	543 ヒ	
64	はやく、家にかえりたい。	福島の子どもたちが思ういのち・かぞく・みらい	鎌田 實 // 監修	2012.5	合同出版	福島の子どもたちは、原発事故をどう受け止めているのか？家族や友だちと離れ離れの暮らし、放射能への不安、終わりの見えない避難生活…。警戒区域に暮らしていた子どもたちが、あの時、今日、未来を綴る。	一般・技術	543 ハ	
63	生命(いのち)たちの悲鳴が聞える	福島の怒りと脱原発テント	エイエム企画 // 編	2012.5	エイエム企画	3・11震災、原発事故以降の福島における困難な1年間の闘いについて、その先頭に立った福島の女性4人による座談会を収録。2011年9月から続く経産省前脱原発テントの運動に関わった5名による座談会も掲載する。	書庫	539 イ	
62	生きのびるための科学		池内 了 // 著	2012.5	晶文社	地下資源文明から地上資源文明へ、大型化・集中化・一様化から小型化・分散化・多様化へ…。東日本大震災と原発事故がひきおこした問題に向き合い、いまの文明そのものの転換を構想する。また、科学の文化としての価値も展望。	書庫	404 イ	
61	風評損害・経済的損害の法理と実務		升田 純 // 著	2012.4	民事法研究会	風評損害・経済的損害に関する判例を分析・検証し、適正な賠償額の算定基準を探究し、その背後にある法理を紹介。福島第一原発事故に伴う損害の立証、被害額の算定等の訴訟実務の解説、判例17件を追録した第2版。	一般・社会	324 マ	
60	原発立地・大熊町民は訴える		木幡 仁 // 共著	2012.5	柘植書房新社	大地震と福島原発からの放射能被害という過酷災害を受けた福島原発直下の大熊町。前大熊町議や大熊町の明日を考える女性の会代表のインタビュー、会議メモを収録するとともに、原発事故被害者の生きる権利を訴える。	一般・技術	543 コ	
59	3・11後を生きるきみたちへ	福島からのメッセージ	たくき よしみつ // 著	2012.4	岩波書店	地震・原発列島に住む私たちは、これからどんな生き方をしていけばいいのか？どんな社会をつかっていけばいいのか？福島第一原発南西の川内村で、3・11の大地震とつづく原発事故を体験した著者からのメッセージ。	ティーンズ	543 タ	
58	放射能を背負って	南相馬市長・桜井勝延と市民の選択	山岡 淳一郎 // 著	2012.4	朝日新聞出版	分断される市民と放射能の不条理。南相馬市長・桜井勝延を1年間にわたり取材。現場を歩き、肉声を集め、地方と中央の矛盾に切り込む、ポスト3・11ドキュメント。児玉龍彦と桜井勝延による対談も収録。	一般・社会	318 ヤ	

57	飯舘村は負けない	土と人の未来のために	千葉 悦子 // 著	2012.3	岩波書店	村に放射能が降った。浜の避難者を懸命に受け入れた人々への全村避難指示、不安と混乱。家を、牛を、豊かな土を、丹精込めた村を捨てるのか…。人々の長いたたかいに寄り添ってきた研究者による、未来のための報告。	一般・技術	543 千	
56	フクシマ元年	原発震災全記録 2011-2012	豊田 直巳 // 著	2012.3	毎日新聞社	原発震災の翌日から、フォトジャーナリストである著者は福島に入った。世界の紛争地で戦争のむごさを報じてきた目が、フクシマ元年の苦難と対峙する。未来への責任としてまとめた1年間の全記録。	書庫	543 ト	
55	最高幹部の独白	福島原発の真実	今西 憲之 // 著	2012.3	朝日新聞出版	本当の敵は、官邸と東電本社だった! 地震直後から福島第一原発最高幹部が原発内の現場で書き残していたメモを一挙公開する。最高幹部への「原発の未来」についてのインタビューも収録。『週刊朝日』掲載を単行本化。	書庫	543 サ	
54	百人百話	第1集 故郷にとどまる故郷を離れるそれぞれの選択	岩上 安身 // 著	2012.3	三一書房	未曾有の大地震と津波、そして福島第一原発事故。福島で暮らしてきた人々の思いとは…? インターネット報道メディア『IWJ』で配信したインタビュー・シリーズの第1期にあたる29人を中心とした語りをまとめる。	一般・技術	543 イ	
53	なぜ院長は「逃亡犯」にされたのか	見捨てられた原発直下「双葉病院」恐怖の7日間	森 功 // 著	2012.3	講談社	福島第一原発から4.5キロ地点にある双葉病院。現れない救急車両、真っ暗闇の院内、病院の車で逃げた自衛隊員…。原発爆発当時、孤軍奮闘した医師たちの168時間。なぜ彼らが汚名を着せられたのか、その真実に迫る。	一般・技術	543 モ	
52	3・11原発震災	福島住民の証言	ロシナンテ社 // 編	2012.3	解放出版社	原発事故後、福島県の住民はどう行動したのか。そしてどう生き抜いたのか。子どもを守るために避難した人、生活を続けるために留まった人など7人の声を収録する。『月刊むすぶ 自治・ひと・くらし』掲載を書籍化。	書庫	543 サ	
51	世界が見た福島原発災害	3	大沼 安史 // 著	2012.3	緑風出版	福島原発災害を伝える海外メディアを追い、政府・マスコミの情報操作を暴き、事故と被曝の全貌と真実に迫る。3は、2011年9月半ば以降、半年間の状況展開をまとめ、記録として綴る。	一般・技術	543 オ	
50	福島原発現場監督の遺言		恩田 勝亘 // 著	2012.2	講談社	設計図は立派でも配管や溶接は三流で、ずさん工事、インチキ検査がまかり通る…。福島原発で現場監督を務めた故・平井憲夫の証言を、長年原発取材を続けてきた著者が検証する。	書庫	543 オ	
49	「反原発」の不都合な真実		藤沢 数希 // 著	2012.2	新潮社	原発廃絶が「正義」となった今、感情論を超えた議論のために、原子力技術、放射線と健康被害、経済的影響を検討し、将来性を見据えたエネルギー政策を提言する。	一般・技術	539 フ	
48	メルトダウン	ドキュメント福島第一原発事故	大鹿 靖明 // 著	2012.1	講談社	日本を崩壊寸前に追い込んだ福島第一原発事故。この未曾有の危機に際して、官邸、東京電力、経産省、金融界では、いったい何が起きていたのか? のべ100人以上の関係者を取材してわかった驚愕の新事実を公開する。	書庫	543 オ	
47	放射能から子どもの未来を守る		児玉 龍彦 // [著]	2012.1	ディスカヴァー・トゥエンティワン	なぜ「メルトダウンはしていない」と嘘をついていたのか。セシウム牛はどうして出てきたのか。政府の無策ぶりを国会で糾弾した内部被曝研究の第一人者と、「失われた20年」を厳しく批判し続けてきた経済学者の魂の対談。	書庫	543 コ	

46	検証福島原発事故・記者会見	東電・政府は何を隠したのか	日隅 一雄 // 著	2012.1	岩波書店	福島原発事故後の記者会見で、東電と政府はどのように情報を隠し、深刻な事故を過小評価し、誤った説明を繰り返してきたのか。膨大な取材メモと新たな取材をもとに正面から検証に挑み、マスメディアのあり方を問う。	書庫	543 ヒ	
45	FUKUSHIMAレポート	原発事故の本質	FUKUSHIMAプロジェクト委員会 // 著	2012.1	日経BPコンサルティング	福島第一原子力発電所の事故を、第三者の立場から調査、分析した結果を書籍などを通じて発表し、そこから得られる教訓を後世に伝えることを目的として発足した「FUKUSHIMAプロジェクト」の成果をまとめる。	書庫	543 フ	
44	空気と食べ物の放射能汚染	ナウシカの世界がやってくる!	青木 泰 // 著	2012.1	リサイクル文化社	東京電力福島第1原子力発電所の事故による内部被曝をどう防いでいくべきか。空気と食物の放射能汚染を中心に、経過と現状をまとめるほか、原発事故の報道情報を時系列に整理し、放射線量についての諸説も紹介する。	書庫	539 ア	
43	目を凝らしましょう。見えない放射能に。		うの さえこ // 著	2012.2	クレヨンハウス	福島原発震災が起きてから大気中に放出された放射性物質は、77万テラベクレル。広島原爆約470個分のセシウムが環境中に解き放たれてしまいました…。2011年6月「脱原発100万人アクション」でのスピーチを収録。	書庫	543 ウ	
42	福島原発行動隊	今、この国に必要なこと	山田 恭暉 // 編著	2012.1	批評社	原則60歳以上の退役者による福島第一原発事故収束のための作業志願者隊である「福島原発行動隊」。行動隊の参加者や賛助会員の気持ち、考え方、さらには行動隊は何をしようとしているのかを紹介する。	書庫	543 ヤ	
41	官邸から見た原発事故の真実	これから始まる真の危機	田坂 広志 // 著	2012.1	光文社	福島原発事故は、本当はどこまで深刻な事態に陥っていたのか? これから始まる真の危機とは? 内閣官房参与として原発事故対策に取り組んだ原子力の専門家が、緊急事態で直面した現実と極限状況での判断について語る。	一般・技術	543 タ	
40	放射線になんか、まけないぞ!	イラストブック	坂内 智之 // 文	2012.1	太郎次郎社エディタス	放射線って、どんなもの? 何に気をつければいいの? これからどうするの? 日々の注意点、放射線の基礎知識、除染の進め方などを、イラストを交えてやさしく説明します。	児童・技術	539 ハ	
39	福島原発の町と村		布施 哲也 // 著	2011.1	七つ森書館	福島をめぐる過去と未来。いま、何が起きているのか? 原発を誘致した町、放射能が降ってきた村。福島県浜通り地方の現地を取材し、東京電力福島第一原子力発電所事故の深層を解き明かす。	書庫	543 フ	
38	いまからでも間に合う!家族のための「放射能を解毒する」食事		生田 哲 // 著	2011.1	講談社	体内に取り込まれた「放射性物質を解毒する」方法と、放射能から「子どもたちの脳と体を守り、健康に育てる」方法を解説する。栄養素の解毒効果と、その栄養素を多量に含む食材一覧表も掲載。	書庫	493 イ	
37	福島第一原発風下の村	森住卓写真集	森住 卓 // 写真 文	2011.1	扶桑社	暮らしたとふるさと、すべてのものを一瞬にして奪ってしまった原発事故。福島第一原発の風下に位置する福島県飯館村で、廃棄された牛乳、避難する人々…。村民の悲しみと怒りを撮影した写真集。	書庫	543 モ	
36	原発事故の訴訟実務	風評損害訴訟の法理	升田 純 // 著	2011.1	学陽書房	東日本大震災によって引き起こされた福島第一原子力発電所の事故に起因する原子力損害、特に風評被害について、訴訟における損害賠償額の認定、算定の実務を紹介する。	書庫	543 マ	

35	福島は訴える	「くらし」「子育て」「なりわい」を原発に破壊された私たちの願いと闘い	福島県九条の会 // 編	2011.1	かもがわ出版	福島第一原子力発電所事故によって、「くらし」「子育て」「なりわい」を破壊された福島の人びとが、原発を、放射能を、自分の声で語る。自治体の対応と除染に向けた住民の取り組みなども紹介。	一般・技術	543 7	
34	僕のお父さんは東電の社員です	小中学生たちの白熱議論!3・11と働くことの意味	毎日小学生新聞 // 編	2011.1	現代書館	「僕のお父さんは東電の社員です」悪いのは東電だけ? 子どもはどんな責任を持つのか? 全国の小中学生が参加した白熱議論から、日本人の責任と課題、可能性を模索する。『毎日小学生新聞』の読者投稿に解説を付け単行本化。	一般・技術	543 ホ	
33	世界が見た福島原発災害	2	大沼 安史 // 著	2011.1	緑風出版	福島原発災害を伝える海外メディアを追い、政府・マスコミの情報操作を暴き、事故と被曝の全貌と真実に迫る。2は、2011年5月半ばから9月中旬までのおよそ120日の間に綴った記録を整理し、まとめる。	一般・技術	543 オ	
32	フクシマ2011、沈黙の春		八木澤 高明 // 著	2011.1	新日本出版社	人々が何世代にもわたって積み重ねてきた歴史や日々の営みが、あの日を境にぱつぱりと断ち切られた…。福島第一原子力発電所事故で放射性物質に汚染された土地に生きるものたちを撮影した写真集。英文併記。	書庫	369 ヤ	
31	原発と村	Vanishing Village	郡山 総一郎 // 著	2011.1	新日本出版社	福島原子力発電所から約30キロに位置する浪江町津島地区。出荷やモニタリングのための移動などで牛がいなくなると同時に住民は避難。津島地区での人々の営みは消えた…。異常な線量下で生きた酪農家の姿を捉えた写真集。	書庫	543 コ	
30	福島第一原発潜入記	高濃度汚染現場と作業員の真実	山岡 俊介 // 著	2011.1	双葉社	震災後の福島第一原発に潜入したフリージャーナリストが、原発の内情の詳細と作業員の生の声を伝える。福島第一原発作業員と「原発被曝列島」の著者・樋口健二のインタビュー、全国の原発で働く作業員の本音座談会も収録。	書庫	543 ヤ	
29	放射能の中で生きる、母(マドンナ)たちへ	チェルノブイリからフクシマへ、子どもの命を守る知恵	野呂 美加 // 著	2011.1	美術出版社	福島第一原発の事故によって土壌や食品など、さまざまなものが汚染されたなかで、いかに子どもたちを守っていくのか。19年間、チェルノブイリの子どもたちの救援を行ってきた著者が、命を救うためのメッセージを語る。	書庫	493 ノ	
28	原発禍を生きる		佐々木 孝 // 著	2011.8	論創社	福島第一原発から約25キロ。南相馬市に認知症の妻とともに暮らしながら、情報を発信し続ける反骨のスペイン思想研究家が綴った2011年3～7月のブログを単行本化。	書庫	916 サ	
27	福島原発大事故土壌と農作物の放射性核種汚染		浅見 輝男 // 著	2011.8	アグネ技術センター	環境土壌学の第一人者が、土壌汚染問題の基本情報として、福島第一原発大事故の経緯と放射性核種の排出、かつて行われた大気圏内爆発実験による日本の土壌・作物汚染、チェルノブイリ原発事故の環境影響について解説する。	書庫	519 ア	
26	美しい村に放射能が降った	飯舘村長・決断と覚悟の120日	菅野 典雄 // 著	2011.8	ワニ・プラス	福島原発事故の放射能漏れにより、計画的避難指示区域に指定された福島県飯舘村の村長が、国やマスコミとの攻防と奮闘、命か暮らしかで決断を迫られたその時々心の内、さらに「2年で村に帰る」展望など思いのたけを綴る。	書庫	543 カ	

25	放射能汚染ほんとうの影響を考える	フクシマとチェルノブイリから何を学ぶか	浦島 充佳 // 著	2011.7	化学同人	福島第一原発事故による放射能漏れは、人びとにどのような影響を及ぼすのか。チェルノブイリ原発事故後の25年間に発表された報告書や論文を読み解き、福島と比較。現状を分析して将来を予測し、今何をすべきかを示唆する。	書庫	493 ウ	
24	福島で生きる!	原発31km地点・100日の記録	山本 一典 // 著	2011.8	洋泉社	福島と出会って25年、定住して10年。私は第二の故郷であるここを離れない! 避難指示、放射能、風評被害…。「田舎暮らしの達人」が記録した、新聞・テレビで報道されない最前線の日常。	一般・日文	916 ヤ	
23	のこされた動物たち	福島第一原発20キロ圏内の記録	太田 康介 // 著	2011.7	飛鳥新社	飼い主との再会も、助けられなかった命も…。福島第一原発20キロ圏内で保護活動をするカメラマンが撮りためた、助けを待ち続ける動物たちの記録。	一般・産業	645 オ	
22	なさけないけどあきらめない	チェルノブイリ・フクシマ	鎌田 實 // 著	2011.7	朝日新聞出版	医師であり、チェルノブイリに何度も通って医療支援を続ける著者が、福島県の被災地に入って見聞きした現状を紹介し、福島第一原発の事故直後から書きためてきたノートを公開。放射線医療の第一人者などとの対談も収録。	書庫	543 カ	
21	放射線と発がん	東日本大震災復興支援特別寄稿	公益財団法人大阪癌研究会:発行	2011.6	公益財団法人大阪癌研		書庫	539 コ	
20	放射能と生きる		武田 邦彦 // 著	2011.6	幻冬舎	福島原発事故の終息は依然見えず日本は汚染され続けている。残留する放射性物質とこれから長く共存する上で、どうしたら身の安全、子供の健康を守ることができるのか、具体的な指針を示す。ブログ記事を再整理し時系列で掲載。	書庫	543 タ	
19	「フクシマ」論	原子カムラはなぜ生まれたのか	開沼 博 // 著	2011.6	青土社	原子カムラという鏡に映し出される、戦後日本の成長神話と服従のメカニズム。原発や関連施設を抱える地域「原子カムラ」をテーマに、「中央と地方」と「日本の戦後成長」の関係を論じる。	書庫	539 カ	
18	放射能から身を守るQ&A100	これなら安心!	桜井 淳 // 監修	2011.7	学研パブリッシング	外に出るときの服装は? 普段から準備しておくものは何? 突然の放射能事故発生に備えるための知識や事故が起こってしまった後の対処法などについて、Q&A形式で解説する。家族を守るチェックシート付き。	書庫	539 ホ	
17	福島第一原発事故衝撃の事実	元IAEA緊急時対応レビューアーが語る	高橋 啓三 // 著	2011.6	ぜんいち出版	放射能は目に見えないだけに、その恐怖は計り知れない。原発の恐怖と真正面から向き合い、原発に関する事実と数字にもとづいて福島第一原発の事故を検証。情緒に流されることなく原発をめぐる事象を見直す。	書庫	543 タ	
16	福島原発の真実		佐藤 栄佐久 // 著	2011.6	平凡社	日々、深刻の度合を深める福島原発事故。洪水のように溢れかえる情報の中で、一体何を信じたらよいのか? 国が操る「原発全体主義政策」の病根を知り尽くした福島県前知事が、そのすべてを告発する。	一般・技術	539 サ	
15	津波と原発		佐野 真一 // 著	2011.6	講談社	日本の近代化とは、高度成長とはなんだったのか? 三陸大津波と福島原発事故が炙り出す日本人の精神とは? ノンフィクション界の巨人が、3・11の現場を歩く。	書庫	369 サ	

14	福島第一原発事故と放射線	緊急解説!	水野 倫之 // 著	2011.6	NHK出版	「福島第一原発」で何が起きたのか? それは収束するのか? 放射線の影響は大丈夫なのか? そもそも、なぜ原発だったのか…。「福島第一原発事故」と「放射線の影響」について、わかりやすく解説する。	書庫	543 7	
13	これでいいのか福島原発事故報道	マスコミ報道で欠落している重大問題を明示する	丸山 重威 // 編 著	2011.5	あけび書房	福島原発事故に関して「何が報道されていないか」をできるだけ専門的な立場から紹介し、その中でメディアの問題を浮き彫りにする。日本環境学会緊急提言など、メディアが重視しなかった大切な声明も掲載。	書庫	543 マ	
12	ただちに健康に影響はありません	とんでも発言集		2011.6	ふゆーじょん ぷろだくと	東日本大震災が発生した3月11日から4月30日まで、原子力発電に関する政府、原子力安全・保安院、行政、東京電力、原子力安全委員会、IAEA、マスコミ、学者の発言を日付順に掲載。過去の「とんでも発言」もまとめる。	一般・技術	543 タ	
11	世界が見た福島原発災害	海外メディアが報じる真実	大沼 安史 // 著	2011.6	緑風出版	福島原発災害を伝える海外メディアを追い、政府・マスコミの情報操作を暴き、事故と被曝の全貌と真実に迫る。仙台に住む著者が福島原発事故後およそ60日の間に綴った記録を整理し、まとめる。	一般・技術	543 オ	
10	福島原発メルトダウン	FUKUSHIMA	広瀬 隆 // 著	2011.5	朝日新聞出版	津波は本当に「想定外」だったのか。燃料棒の損傷を防ぐ手立てはなかったのか。福島第一原発事故の本当の原因を探り、地震活動期に入った日本列島で「次」を防ぐ策を示	書庫	543 ヒ	
9	福島原発難民	南相馬市・一詩人の警告	若松 丈太郎 // 著	2011.5	コールサック社	人間は原子力を制御できない。疑う者はチェルノブイリ、スリーマイル、福島を見よ! 福島県南相馬市に住む詩人が、原子力の不毛に警鐘を鳴らす。『COAL SACK』『詩と思想』などに掲載した詩文を収録。	書庫	543 ワ	
8	福島原発事故	どうする日本の原発政策	安斎 育郎 // 著	2011.5	かもがわ出版	福島第一原発事故による放射能災害は何を示したのか? 放射線による被曝、原発の問題点、日本の原発政策について解説し、エネルギー政策を問い直す。巻末に1972年第1回原発問題シンポジウムにおける演説を収録。	書庫	543 ア	
7	東電・福島第1原発事故備忘録	原子力利権とCO2地球温暖化説が日本を壊滅させた	近藤 邦明 // 著	2011.5	不知火書房	東北地方を襲った巨大地震をきっかけに、おそらくチェルノブイリに並ぶ原子力発電史上最も重大な事故が始まった。福島第一原発事故についての思いをリアルタイムで書き留めてきた内容をまとめ、関連するレポートも収録。	一般・技術	543 コ	
6	日本復興計画		大前 研一 // 著	2011.4	文藝春秋	大地震と大津波、それによる居住区の破壊、インフラの切断、そして福島第一原発の事故。これらの危機・破壊がなぜ起こったか? 短期・長期の復興の道筋とは? 原子力工学の博士号をもつ国家コンサルタントの緊急提言。	書庫	543 オ	
5	原子炉解体	廃炉への道	石川 迪夫 // 編著	2011.4	講談社	1981年に始まった準備から、1986年の着工、1996年の完了まで、日本初の廃炉の全記録。小型の実験炉の解体作業に求められた気が遠くなるような膨大な費用・労力・時間・配慮。原発の全貌とその抱える問題に迫る。	書庫	543 イ	
4	原発崩壊	想定されていた福島原発事故	明石 昇二郎 // 著	2011.5	金曜日	2007年柏崎刈羽原発震災事故は避けられない「天災」ではなく、人為的な要因が多分に絡んだ「人災」だった。震災事故を引き起こした責任者たちの行状を徹底的に検証。「想定内の津波被害と放射能来襲」等を加筆した増補版。	書庫	543 ア	

3	原発事故緊急対策マニュアル	放射能汚染から身を守るために	日本科学者会議福岡支部核問題研究委員会 // 編	2011.4	合同出版	福島原発事故で「安全神話」が崩壊した今、家族の身を守るために、知っておくべきこととは何か？ 原発事故の特徴と対策、放射線障害から身を守る方法、重大事故が起こるしくみなどを解説する。	書庫	543 ケ	
2	福島原発人災記	安全神話を騙った人々	川村 湊 // 著	2011.4	現代書館	2011年3月11日、東日本大地震が起き、大津波が福島原発の発電設備を根こそぎ攫っていった。その後も続く異常事態は誰が引き起こしたのか？ 東電・政府・専門家らの発言を交え、日本の原子力行政の破綻を明らかにする。	書庫	543 カ	
1	原発事故残留汚染の危険性	われわれの健康は守られるのか	武田 邦彦 // 著	2011.4	朝日新聞出版	原発事故でもっとも危険なのは残留放射線である…。福島原発事故が起きた原因を明らかにし、事故の問題点を指摘するとともに、どうすれば身を守れるのかを考える。	書庫	543 タ	